

被災地方言会話集

－ 宮城県多賀城市 －

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点 宮城県多賀城市

収録日時 2012（平成 24）年 7 月 21 日

収録場所 宮城県多賀城市市川（話者 A・B 宅）

話題 【場面設定会話】
全 13 場面

話者

A	女	1937（昭和 12）年	（収録時 75 歳）	[B の妻]
B	男	1930（昭和 5）年	（収録時 82 歳）	[A の夫]

話者出身地

A	多賀城市高崎（たかさき）※7 歳まで東京都大田区馬込
B	多賀城市市川（いちかわ）

【場面設定会話】〔1〕

話し手

A 女 1937 (昭和 12) 年 (収録時 75 歳)
B 男 1930 (昭和 5) 年 (収録時 82 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オハヨーゴザイマス。キョー アツイコダネー。
おはようございます。 今日 [は] 暑いことだね。

002B : オハヨーゴザイマス。アー、イヤ、キョーモー ゲンキデイルナー。
おはようございます。 あー、いや、今日も 元気であるな。

カラダ ナンジョダー。
体 [は] どうだ。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オヒル タベタノスカワー。
お昼 [は] 食べたのですか。

002B : クッタッチャー。イマカラ ナーニスルノ。
食べたよ。 今から 何するの。

003A : ウン、ハタケサ イク° ンダヨー、オラー。 ヤオヤトリダー。〔2〕
うん、畑へ 行くんだよ、 私。 野菜採りだ。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オバンデス。
こんばんは。

002B : オバンデス。マダ ネネーノスカ。 イマカラ ドゴサ イク° ノッシャ。
こんばんは。 まだ 寝ないんですか。 今から どこへ 行くのですか。

多賀城市 場面設定会話

003A : イマネー、チョットバリ ゴーミ ダシテキタノッシャワー。
今ね、 ちょっとばかり ゴミ [を] 出してきたんですよ。

004B : ハヤグ ネサインワ。
早く 寝なさいな。

〈 ねぎらい 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : アラー、(B シー) トーグサ イッテキテ ヒドカッタネー。
あら、(B うん) 遠くへ 行ってきて 大変だったね。

002B : ヒンドグモネー。
大変でもない。

003A : オヒルワ ナーニ タベタノッシャワー。
お昼は 何 [を] 食べたのですか？

004B : ウナキ° クッタヨー。
鰻 [を] 食べたよ。

005A : アラ、キョー {笑} ナン ウナベン タベタノスカー。
あら、今日 {笑} 何 鰻弁 [を] 食べたのですか。

ワー、スゴイッチャ。 ンテ ンデ ワタシモ タベネキャネンダ。
わー、すごいよね。 ×× それでは 私も 食べなきゃいけないんだ。

006B : ハッダラカナクチャネーモノー。 {笑}
働かなくちやならないもの。 {笑}

007A : ンデ ハヤグ ハヤグ {笑} フロサ ハイッテ ヤスマイ マ [3]、{笑}
それでは ××× 早く {笑} 風呂へ 入って 休みなさい まあ、{笑}

ネ。
ね。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A：ホラ、オジャ ノマイン。
ほら、お茶 [を] 飲みなさい。

002B：オジャンテ メグネーヤ、 サッパリ。 {笑} ノミダグネー。
お茶なんて 美味しくないや、さっぱり。 {笑} 飲みたくない。

003A：アング (B サケデモ) オチャ オチャ キライダケンド、
あなた [は] (B 酒でも) ××× お茶 [が] 嫌いだけれど、

オチャワ ノマナゲネンダヨー。
お茶は 飲まなきゃいけないんだよ。

004B：ビールデモ ノマシテクサッサイ。
ビールでも 飲ませてください。

005A：ソナノワ ダセマセン、 {笑} ヒルマカラー。オーガーシートー、ホラ、
そんなのは 出せません、 {笑} 昼間から。 お菓子と、 ほら、

オチャッコ ノマイーン。
お茶 [を] 飲みなさい。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、BがA宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A：コンニズワー。
こんにちは。

002B：コンニズワ。
こんにちは。

003A：アラー、ゴーブサタシテテ シバラグダゴダー。キョーフ ナニカ ヨーアル
あら、 ご無沙汰してて 久しぶりなこと。今日は 何か ××××

多賀城市 場面設定会話

ヨースカー。
用ですか。

004B : キョーワー ナニー、ヨー ヨーデネグズ、[4] タダー キテミダンデガスー。
今日は 何、 ×× 用で [は] なくて、 ただ 来てみたんです。

005A : インデ アカ° ッテ、ホラ、オチャ ノマイン。 オハナスデモ ス
それでは あがって、 ほら、お茶 [を] 飲みなさい。お話でも ×

スッカラ、ホレ、アガライン、 アガライン。 ウジサ アガライン。
するから、ほら、あがりなさい、あがりなさい。家へ あがりなさい。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) BがAにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001B : チョットバリーー シャーベル カシテケサインヤー。
ちょっとだけ シャベル [を] 貸してくださいよ。

002A : ア、イーガス、 ツカワイーン。 ナーニスノッシャー、スコップー。
あ、良いですよ、使いなさい。 何するのですか、 スコップ。

カスヨー。イーカラ ツカワイーン。
貸すよ。 いいから 使いなさい。

003B : チョットバリーー ソゴー、ア、ホルータメニサー。
ちょっとだけ そこ [を]、あ、 掘るためにさ。

004A : カシェンコダ、アンダー。
働くこと、 あなた。

005B : ン、ホンナニー カシェグワゲデ ネンダゲドッシャー。マー、
うん。 そんなに 働くわけで [は] ないんだけどさ。 まあ、

ウンドーノタメニー、エ、スコスー (A うん) ソノヒーン [5]
運動のために、 ×× すこし (A うん) その辺

多賀城市 場面設定会話

006A : アー、 (B シー) ソー、シー。アー、イーゴッタッチャ、アンタ。イ ウン。
あー、 (B うーん) そう、うん。あー、良いことだわ、 あなた。× うん。

ユックリ ツカワイン。カスカラ、ホラ。
ゆっくり 使いなさい。貸すから、ほら。

〈 お礼 〉

(8) Bが借りたスコップをAに返しに行ったときのやりとり。

001B : シャベル カ カ カエスカラネー。
シャベル [を] × × 返すからね。

002A : ハーイ、 (B ハイ) ハイ、ドモドモ。ゴクローサーン。ズイーブン
はい、 (B はい) はい、どうもどうも。 ご苦労さま。 随分 [の]

ジカン カシエーダンデネーノー、アンダー。ダイジョーブスカー。
時間 働いたんじゃないの、 あなた。 大丈夫ですか。

003B : ン、カラダー ンー タイシタゴドネー。ア タイシタ
うん、体 [は] うーん 大したことない。 × 大して

カシエガネーガラー、 (A ウーン) ホンナノ スンペースッコダネー。
働かないから、 (A うん) そんなの 心配することはない。

004A : マタ {笑} ツカウトキ、モッテカ° イン。
また {笑} 使う時、 持っていきなさい。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) BがAに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Aが構わないという場合。 [6]

001B : シャベル ツカッタノ、 ナンダガナー、 (A ウン) コワ
シャベル 使ったの [が]、何だかな、 (A うん) ××

コワリデ [7] シマッタガラサー。コイズー、ンー {舌打ち}
壊れてしまったからさ。 こいつ、 うーん {舌打ち}

多賀城市 場面設定会話

コマッタナー。マダ
困ったな。 ××

002A : イーカラ、ベンショースネクタッテ イーガラ イーガラ。ウン。
良いから、弁償しなくたって 良いから 良いから。うん。

003B : ア、ベンショーシナクテモ イーノガヨ。
あ、弁償しなくても 良いのかよ。

004A : ウン、イ (B シー) イーカラ、コワシテシマ シマ (B シーシーシー)
うん、× (B うん) 良いから、壊して×× ×× (B うんうんうん)

ショーガナイッチャー。 ホッタゴド イーガラ、オライデ カリダドギ
しょうがないじゃないか。 そんなこと 良いから、私の家で 借りたとき

コワスカモシンネガラ、イーガラ、ソイズワ。
壊すかもしれないから、いいから、それは。

(9-2) Aが破損に対して不満を述べる場合。

001A : デキレバ ベンショーシテモラエバ ナオインダナー、オライデワー。
できれば 弁償してもらえれば なお良いんだな、私の家では。

002B : ベンショーツツタッテチャー、 ジェニ ネーゲバー
弁償って言ったってよ、 お金 [が] 無ければ

ベンショーデキネベッチャー。
弁償できないじゃないかよ。

〈 誘いと断り 〉

(10) BがAの誘いを断るときのやりとり。

001B : ソンナトゴサー イク° ヒツヨーネーベチャー、コノー イソガ° シートジー。
そんなところへ 行く必要ないだろう、 この 忙しいとき [に]。

多賀城市 場面設定会話

002A : アンダワ イッツモ ソンナコトバリカダッテー、 (B ウン)
あなたは いつも そんなことばかり言って、 (B うん)

サッパリ ワダシノ ユーゴト キカネーンダカラー。 (B ウン)
さっぱり 私の 言うこと [を] 聞かないのだから。 (B うん)

タマニ イッテミダイヤーネー。ー。
たまに [は] 行ってみたいよね。

003B : イッテミデガヤー、ホンナトゴサヤー。 ナーニ
行ってみたいかよ、そんなところへよ。 何

004A : イギダイ、イギダイ、イギダイ。
行きたい、行きたい、行きたい。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているAに、Bが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Aの調子がいい場合。

001B : オメー、カラダ ナンジョダー。ー。
お前、 体 [は] どうだ。

002A : ンー、ナンボガ ヨグナッター。ー (B ヨグナッダノガヤ) ヨーナ
うん、いくらか 良くなった (B 良くなったのかよ) ような

キガスルーヨー。
気がするよ。

003B : カラダ ダイズダガラナレ。ナラー、ンー、キオツケネードー。ナー。
体 [は] 大事だからね。 なら、 うん、気をつけないと。 なあ。

004A : ンダネ、 オタガイ トシダガラ。 {笑}
そうだね、お互い 年だから。 {笑}

005B : ウーン {笑} ンダナー。
うん {笑} そうだな。

(11-2) Aの調子が悪い場合。

001B : ナニー、カラダー スコス ワルイノガー。

何、体 [が] 少し 悪いのか。

002A : ウン、ンダネー、 ナー نداカ チョーシワルイ。 ダガラ、ビョーインサ
うん、そうだね、 何だか 調子悪い。 だから、病院へ

イッテクッカラッシャー。 (B ウン) オクッテッテケサイーン。

行ってくるからさ。 (B うん) 送って行ってちょうだい。

003B : マダ ビョーインガヤー。

また 病院かよ。

004A : ダッテ、シャーネ

だって、しょうがない

005B : マイニズ、マイニズ (A ア、ビョーインカ° ヨイッテ)

毎日、 毎日 (A あ、病院通いって)

ビョーインカ° ヨイダナー。

病院通いだな。

006A : アンダワ ソーユーケドモー、 (B ウン) シャネンダオンネー。

あなたは そういうけれども、 (B うん) しょうがないんだもんね。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというAに、Bが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001B : {舌打ち} シャネナー、 オメーワ。カラダ ワルイゴッテナー。

{舌打ち} しょうがないな、お前は。 体 [が] 悪いことだからな。

ンデア オレー カダズゲッカー。 (A ウン) フーン。ホントニ ンザ

それでは 俺 [が] 片付けるか。 (A うん) ふーん。本当に ××

多賀城市 場面設定会話

002A : ソナニ、ンダ、 マデニ スッコドネーガラツシャー。
そんなに、あなた、丁寧に することないからさ。

003B : ウザネハグ [8] ナヤ。
骨が折れるなあ。

004A : ウン、 チョゴットネー。ンダネ、 (B ウン) ソノヘン、アノ、ゴミーノ、
うん、 少しね。 そうだね、 (B うん) その辺、 あの、ゴミの、

アノ、ナゲ ゴミ カタズケタリー、 (B ウン) ソーユーコト
あの、×× ゴミ [を] 片付けたり、 (B うん) そういうこと [を]

シテモラエバ インダー。
してもらえば 良いんだ。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をBが間違っ捨てようとしているときに、Aがそれを
制止してどのようにいうか。

001B : シャーシン、ホンナニ ダイジナ シャシンガヤ。フーン。
写真、 そんなに 大事な 写真かよ。 ふーん。

002A : ツテ、アンダワ ソーユーケド、 ダイジナンデスー。ワダシニワ。
って、あなたは そういうけれど、大事なんです。 私には。

003B : ダイジナノ。
大事なの。

004A : ウン、ダガラ。ソナゴド スンナー。 (B フーーン) ネ。 ステータワ
うん、だから。そんなこと するな。 (B ふーん) ね。 捨てては

コマツカラ。
困るから。

005B : コマルシャシン。
[捨てたら] 困る写真？

多賀城市 場面設定会話

006A : ソナ、ウン、ソナ カッテナコト スネディーガラ。 ジブンノゴド
そんな、うん、そんな 勝手なこと [は] しないで良いから。自分のこと [を]

スライン。

しなさい。

宮城県多賀城市方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕 公開する会話について

ここで公開する会話集の内容は、実際に収録時に得られた内容そのままではない部分がある。収録された会話には、自然な流れとは言えない部分があったため、資料作成にあたり、音声の切り貼りによる編集を行っているからである。それでもなお不自然な部分が残るため、資料利用の際には注意を要する。また、話し手の二人は夫婦であるため、話者としての役割を演ずることにためらいがちであり、笑い声が多く入ったり、また、やりとりも夫婦ならではのものになったりする傾向があった。

〔2〕 ヤオヤトリ

野菜採りのことをこう言ったものと思われる。

〔3〕 ヤスマイ マ

末尾の「マ」は終助詞のように見えるが、当地にこのような終助詞が確認できないため、間投詞の「まあ」に相当する形式ととっておく。

〔4〕 ヨーデネグズ

カ行音の有声化により「ク」が「グ」になっていると考えられる。「ズ」については、この地域の発音であるのか、今回この場限りでみられた特殊なものであるのか、言い間違いによるものか分からなかったため、会話の流れから共通語訳は「(用ではなく)て」とした。

〔5〕 ソノヒン

エの母音が狭く、「へ」が「ヒ」に近い音に聞こえている。

〔6〕 冒頭のBさんの発話とかぶさるように、Aさんの「コワシタノ シャベル」という発言が聞こえるが、これは文字化しなかった。

〔7〕 コワリデ

エの母音が狭く、「レ」が「リ」に近い音に聞こえている。

〔8〕 ウザネハク

「難儀する、骨を折る、苦勞する、疲れる」などの意味で、福島を除く東北地方の広い範囲にみられる表現。

宮城県多賀城市方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）
王 卓（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）
町田 隆弘（東北大学文学部 3 年）
櫛引祐希子（追手門学院大学講師）

文字化担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）
王 卓（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）